

「ブータン滞在記」 老年病科 竜野真維先生

ブータンという国をご存知でしょうか? 『幸せの国』として有名ですが、どんな国かイメージできる日本人は少ないかと思えます。私は今回、昨年12月からの3ヶ月間、ブータンに滞在し、現地の診療所で働いてきました。そのときにもみたブータンの様子について、お伝えしたいと思えます。



右：夕方、牛を集めて帰宅する男性 中：ある日の昼食（ご飯の上に野菜と牛肉の唐辛子炒め、チーズ、川苔と野菜のスープ） 左：アーチェリーをする人々

ブータンは、ネパールの東チベットの南側にあります。沖繩くらいの緯度なので、低地は暖かいのですが、標高が高い場所が多く、そこでは雪も積もります。九州と同じくらいの小さな国なのに、山から谷まで移動するだけで一気に四季を体験できるのです。私が滞在したのは、ブータンの東端のタシガンという地域で、標高は2500m前後、日本の冬と同じくらいの寒さでした。

滞在した村では、作物を作ったり、家畜を飼ったりして、自給自足の生活をしている人が大半でした。山の斜面は、一面が棚田や段々畑です。ブータン人に嶺北の写真を見せると、みんな「似ているね」と驚きます。

この地域のお米は赤米です。ブータン人は大人から子供まで、毎食山盛りのご飯を食べます。おかずは、野菜や肉・魚・卵などを具に、塩やチーズで味付けをし、唐辛子をたっぷり入れて辛くします。シンプルで素朴な味ですが、これが結構、美味しいのです。ちなみに、ブータンは仏教国で、動物を殺すことは禁止されています。魚を殺してもいけないので、魚釣りもご法度です。牛、馬などの家畜もたくさんいますが、殺して食べることはありません。ですが、インドからの輸入によって、肉や魚は簡単に手に入ります。菜食主義者になるかどうかは、個人の自由のようです。

ダーツ、石投げの草試合が開催されています。特にアーチェリーは国技であり、みんな熱心に練習しています。的は130m先にあり、とても遠くて小さいので、私には当たったのか外れたのかさえ見えません。しかし驚いたことに、皆とても上手で、大抵は当たらずとも惜しいところに矢が落ちます。これは本当に凄いなと思いました。

ブータンの日常生活の一部分をお伝えしましたが、興味を持っていただけたでしょうか? ブータン人は日本人とそっくりな顔立ちをしており、穏やかで親切な人が多く、文化や生活もどことなく日本と通じる雰囲気があるように思えます。とても居心地がよい国でした。京都大学は長年ブータンとの友好関係があり、交流を続けています。ブータンからのお客さんを、土佐町へご案内することも時々あります。山奥の小国ブータンに、少しでも親しみを感じていただけたら嬉しく思います。(竜野先生のブータン写真展を5月に開催予定です。)



● さめうらぎ ヲ ヲ ラ リー ●
霊人生風杯日本画展
 ただいまギャラリーでは、本山町寺家にある、金剛寺ご住職、越智寛順様による日本画を展示致しております。この機会にぜひご覧ください。

無医地区診療

早明浦病院は隔月で無医地区診療を行っています。

4/20 **金**

時間：PM1:00～
 場所：石原出張所
 医師：吉田隆一郎

高知大学医学部外科学(外科2)講座 **心臓血管外科**

渡橋和政教授が
外来診療を行います

胸部に不安な症状がある方、下肢静脈瘤がある方は受診をお勧めします。

4/14 **土**

5/12・6/16・7/7
 PM2:00～4:00